

2021年2月17日
株式会社日本政策金融公庫

新型コロナウイルス感染症の影響により 依然として厳しい状況にある生活衛生関係営業の景況

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2020年10～12月期）

（前回）新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にある

<業況判断DI>（2ページ）

○ 業況判断DIは、前期からマイナス幅が8.6ポイント縮小し、▲53.2となった。

<売上DI>（3ページ）

○ 売上DIは、前期からマイナス幅が9.3ポイント縮小し、▲69.8となった。

<採算DI>（4ページ）

○ 採算DIは、前期からマイナス幅が9.4ポイント縮小し、▲50.8となった。

<設備投資の実施状況>（7ページ）

○ 2020年10～12月期に設備投資を実施した企業の割合は、20.5%となった。

※ 上記調査結果のほか、業種ごとの業況判断理由を掲載しています（11ページ）。経営取り組み事例は、日本公庫ホームページに掲載しています（https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu_kekka_m_index.html）。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部

生活衛生情報支援グループ 担当：谷藤、一ノ瀬 TEL 03-3270-1653

【調査の実施要領】

調査時点	2020年12月上旬			
調査方法	訪問調査			
調査対象	生活衛生関係営業 3,290企業			
有効回答企業数	3,144企業（回答率 95.6%）			
（業種内訳）	飲食業	1,428 企業	映画館	57 企業
	食肉・食鳥肉販売業	157 企業	ホテル・旅館業	181 企業
	氷雪販売業	56 企業	公衆浴場業	113 企業
	理容業	423 企業	クリーニング業	262 企業
	美容業	467 企業		

【本調査における留意事項】

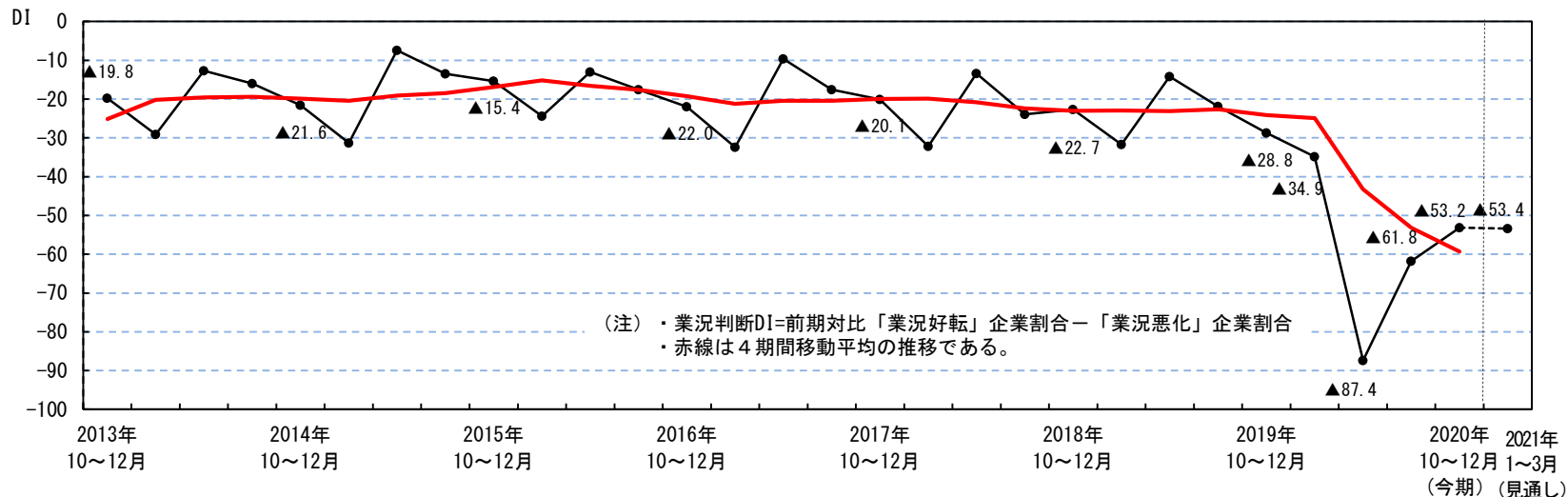
- 2016年4～6月期調査時点で沖縄県を調査対象に加えている。
- 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

I 景気の動向

1. 業況判断

- 業況判断DIは、前期からマイナス幅が8.6ポイント縮小し、▲53.2となった。
- 来期は、▲53.4となる見通しである。

図表1 業況判断DIの推移（全業種計）



図表2 業種別業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2019年 10~12月	2020年 1~3月	2020年 4~6月	2020年 7~9月	2020年 10~12月 (今期)	2021年 1~3月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 26.3	▲ 37.9	▲ 66.9	▲ 46.2	▲ 27.4	▲ 40.1
氷 雪	▲ 49.1	▲ 50.9	▲ 96.4	▲ 67.3	▲ 80.4	▲ 55.4
理 容	▲ 31.4	▲ 33.0	▲ 79.1	▲ 55.1	▲ 58.6	▲ 51.5
美 容	▲ 29.6	▲ 28.6	▲ 88.1	▲ 57.8	▲ 60.0	▲ 49.3
映 画 館	▲ 12.5	▲ 16.7	▲ 98.2	▲ 42.6	▲ 8.8	▲ 56.1
ホテル・旅館	▲ 28.6	▲ 52.2	▲ 96.3	▲ 59.8	▲ 23.2	▲ 51.4
公衆浴場	▲ 20.0	▲ 19.1	▲ 59.8	▲ 50.0	▲ 45.1	▲ 41.6
クリーニング	▲ 20.3	▲ 56.4	▲ 74.1	▲ 84.0	▲ 58.4	▲ 68.7

(注) 表中、全業種計の割合を上回るものを網掛している。以下同じ。

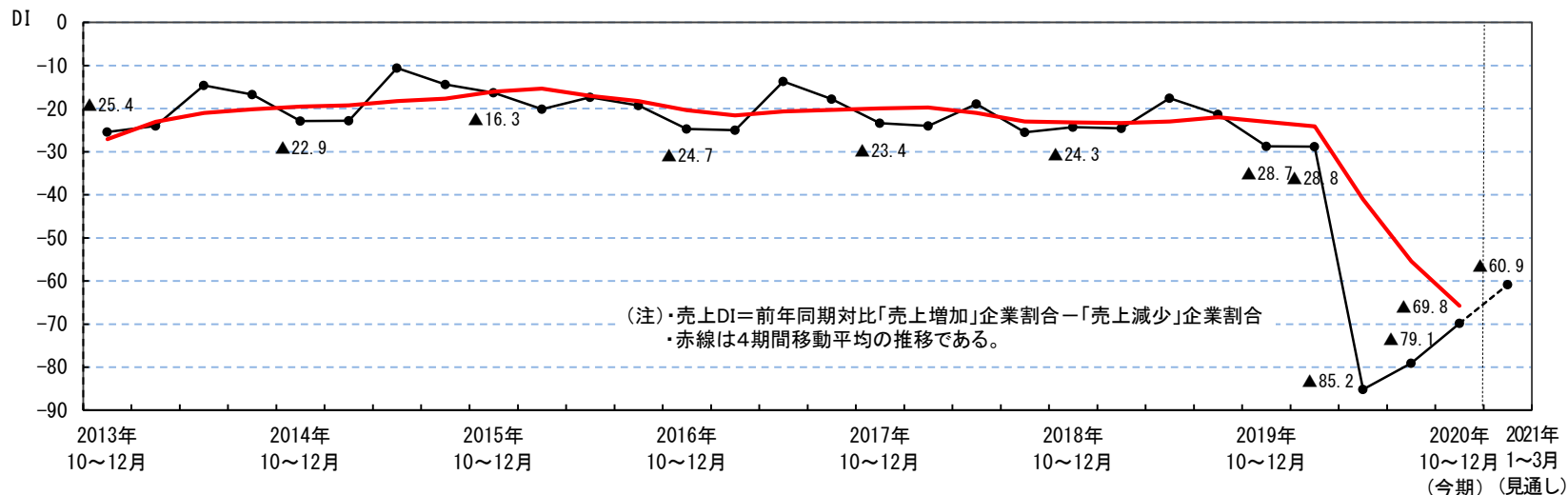
図表3 飲食業業況判断DIの推移

凡例	2019年 10~12月	2020年 1~3月	2020年 4~6月	2020年 7~9月	2020年 10~12月 (今期)	2021年 1~3月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 30.1	▲ 32.2	▲ 94.5	▲ 64.5	▲ 56.4	▲ 54.9
そば・うどん	▲ 29.2	▲ 35.0	▲ 92.5	▲ 42.5	▲ 36.9	▲ 49.7
中華料理	▲ 26.7	▲ 22.5	▲ 91.9	▲ 58.3	▲ 52.2	▲ 62.1
す し	▲ 38.9	▲ 37.4	▲ 96.3	▲ 67.0	▲ 60.4	▲ 50.5
料 理	▲ 29.8	▲ 34.7	▲ 98.5	▲ 74.8	▲ 53.1	▲ 56.3
喫 茶	▲ 29.7	▲ 29.6	▲ 86.6	▲ 70.7	▲ 52.1	▲ 53.3
社 交	▲ 34.0	▲ 33.7	▲ 97.9	▲ 70.1	▲ 72.8	▲ 62.8
その他飲食	▲ 26.5	▲ 32.2	▲ 95.9	▲ 67.4	▲ 59.8	▲ 52.9

2. 売上

- 売上DIは、前期からマイナス幅が9.3ポイント縮小し、▲69.8となった。
- 来期も、マイナス幅が縮小し▲60.9となる見通しである。

図表4 売上DIの推移（全業種計）



図表5 業種別売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2019年 10~12月	2020年 1~3月	2020年 4~6月	2020年 7~9月	2020年 10~12月 (今期)	2021年 1~3月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 38.2	▲ 39.2	▲ 62.3	▲ 57.7	▲ 45.9	▲ 43.3
氷 雪	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 94.5	▲ 94.5	▲ 91.1	▲ 85.7
理 容	▲ 32.4	▲ 32.5	▲ 72.9	▲ 67.8	▲ 64.5	▲ 55.6
美 容	▲ 32.3	▲ 24.7	▲ 81.4	▲ 74.7	▲ 69.0	▲ 57.1
映 画 館	8.9	▲ 3.7	▲ 100.0	▲ 96.7	▲ 28.6	▲ 60.7
ホテル・旅館	▲ 29.6	▲ 31.5	▲ 93.5	▲ 88.1	▲ 68.3	▲ 67.8
公衆浴場	▲ 22.7	▲ 14.5	▲ 55.4	▲ 57.0	▲ 61.9	▲ 45.1
クリーニング	▲ 31.0	▲ 39.0	▲ 80.7	▲ 82.4	▲ 77.9	▲ 63.7

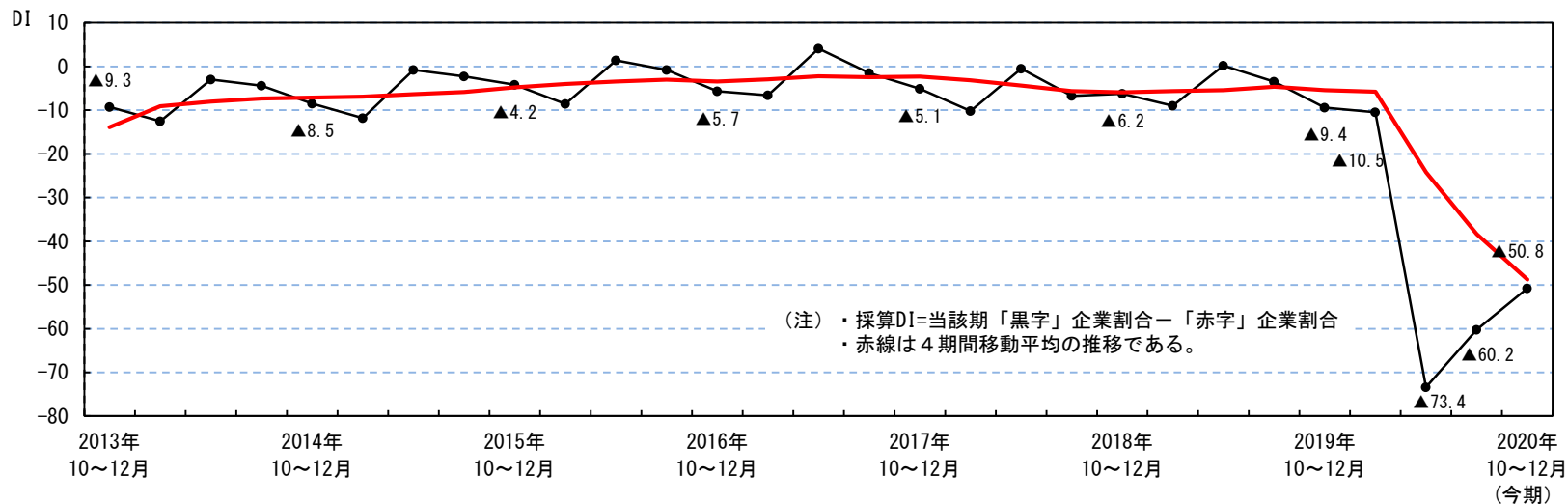
図表6 飲食業売上DIの推移

凡例	2019年 10~12月	2020年 1~3月	2020年 4~6月	2020年 7~9月	2020年 10~12月 (今期)	2021年 1~3月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 27.2	▲ 27.5	▲ 93.8	▲ 85.0	▲ 74.5	▲ 64.5
そば・うどん	▲ 25.7	▲ 26.4	▲ 89.5	▲ 67.8	▲ 46.1	▲ 53.9
中華料理	▲ 17.1	▲ 21.4	▲ 91.9	▲ 82.8	▲ 74.5	▲ 71.4
す し	▲ 38.9	▲ 41.8	▲ 96.8	▲ 86.2	▲ 74.6	▲ 56.9
料 理	▲ 37.5	▲ 29.9	▲ 94.1	▲ 91.9	▲ 79.7	▲ 55.5
喫 茶	▲ 26.1	▲ 26.3	▲ 86.0	▲ 77.1	▲ 66.3	▲ 50.0
社 交	▲ 33.0	▲ 34.0	▲ 97.9	▲ 97.9	▲ 92.1	▲ 81.1
その他飲食	▲ 21.8	▲ 21.2	▲ 96.1	▲ 87.7	▲ 80.3	▲ 70.7

3. 採算

- 採算DIは、前期からマイナス幅が9.4ポイント縮小し、▲50.8となった。

図表7 採算DIの推移（全業種計）



図表8 業種別採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2019年 10~12月	2020年 1~3月	2020年 4~6月	2020年 7~9月	2020年 10~12月 (今期)
食肉・食鳥肉	2.6	5.9	▲47.5	▲28.2	▲16.6
氷雪	▲16.4	▲21.1	▲89.1	▲83.6	▲73.2
理容	▲7.1	▲6.9	▲52.0	▲39.5	▲31.4
美容	▲10.1	▲8.7	▲68.9	▲47.8	▲44.3
映画館	10.7	▲3.7	▲98.2	▲85.2	▲40.4
ホテル・旅館	3.3	▲21.1	▲96.3	▲86.0	▲61.3
公衆浴場	▲9.1	▲3.6	▲33.9	▲37.7	▲29.2
クリーニング	▲14.6	▲34.8	▲49.8	▲66.8	▲59.5

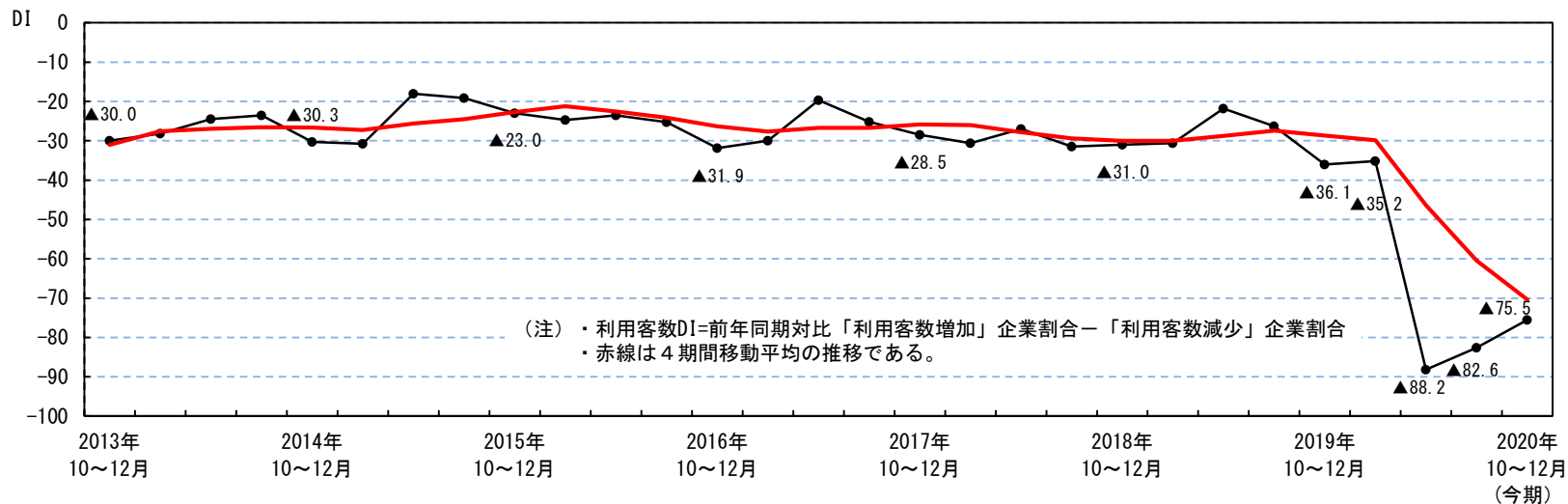
図表9 飲食業採算DIの推移

凡例	2019年 10~12月	2020年 1~3月	2020年 4~6月	2020年 7~9月	2020年 10~12月 (今期)
飲食業(全体)	▲12.3	▲8.4	▲86.9	▲69.4	▲60.7
そば・うどん	▲4.5	▲3.3	▲85.5	▲49.7	▲33.5
中華料理	▲11.5	▲5.0	▲77.6	▲58.3	▲51.6
すし	▲16.7	▲12.6	▲84.7	▲69.8	▲56.0
料理	▲16.5	▲8.5	▲91.1	▲81.3	▲71.9
喫茶	▲19.6	▲17.3	▲83.5	▲60.5	▲52.7
社交	▲10.3	▲2.1	▲93.1	▲87.1	▲85.9
その他飲食	▲11.2	▲9.5	▲89.3	▲73.8	▲66.2

4. 利用客数

- 利用客数DIは、前期からマイナス幅が7.1ポイント縮小し、▲75.5となった。

図表10 利用客数DIの推移（全業種計）



図表11 業種別利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2019年 10～12月	2020年 1～3月	2020年 4～6月	2020年 7～9月	2020年 10～12月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 30.9	▲ 34.6	▲ 39.6	▲ 39.1	▲ 28.7
氷雪	▲ 36.4	▲ 38.6	▲ 98.2	▲ 94.5	▲ 89.3
理容	▲ 38.6	▲ 38.5	▲ 81.0	▲ 73.5	▲ 68.8
美容	▲ 41.6	▲ 36.0	▲ 89.7	▲ 82.5	▲ 82.8
映画館	8.9	▲ 11.1	▲ 100.0	▲ 96.7	▲ 39.3
ホテル・旅館	▲ 34.1	▲ 42.7	▲ 100.0	▲ 92.7	▲ 70.6
公衆浴場	▲ 28.2	▲ 22.7	▲ 58.0	▲ 64.0	▲ 66.4
クリーニング	▲ 41.4	▲ 47.3	▲ 87.6	▲ 88.5	▲ 85.5

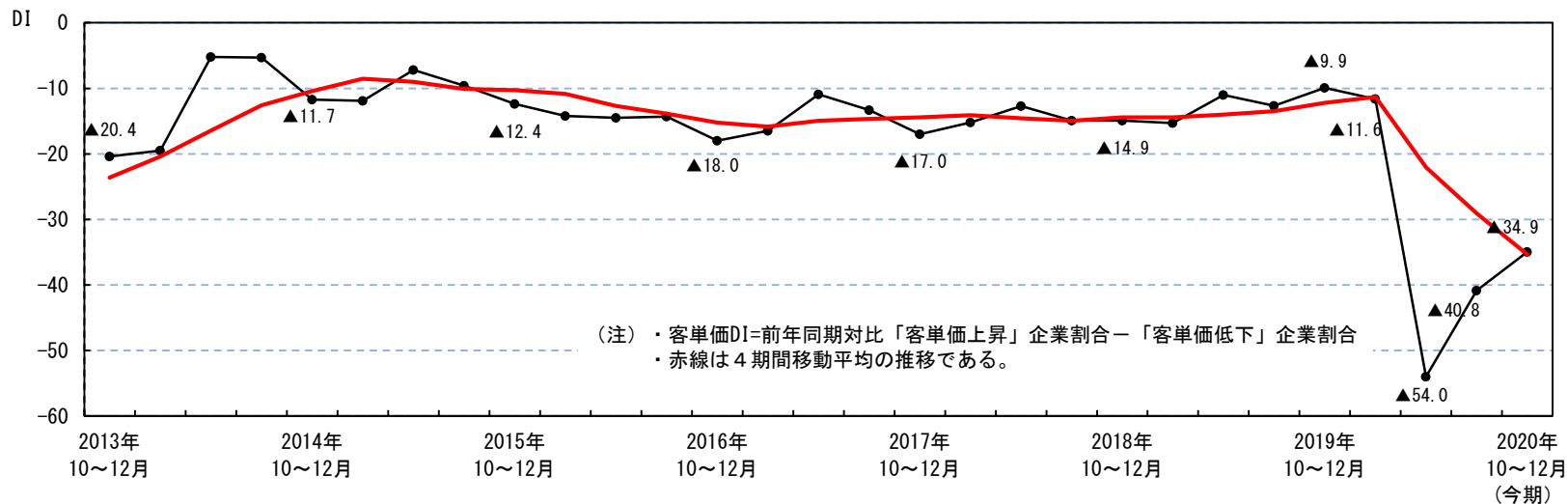
図表12 飲食業利用客数DIの推移

凡例	2019年 10～12月	2020年 1～3月	2020年 4～6月	2020年 7～9月	2020年 10～12月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 35.7	▲ 32.5	▲ 95.3	▲ 88.2	▲ 80.7
そば・うどん	▲ 37.7	▲ 30.9	▲ 95.3	▲ 70.6	▲ 60.7
中華料理	▲ 26.8	▲ 25.2	▲ 93.2	▲ 86.5	▲ 85.7
すし	▲ 42.8	▲ 45.6	▲ 95.7	▲ 90.1	▲ 79.6
料理	▲ 45.8	▲ 35.9	▲ 97.0	▲ 91.1	▲ 82.0
喫茶	▲ 41.4	▲ 33.8	▲ 90.9	▲ 84.3	▲ 74.1
社交	▲ 41.2	▲ 35.1	▲ 98.4	▲ 99.0	▲ 96.3
その他飲食	▲ 27.9	▲ 27.9	▲ 95.8	▲ 91.3	▲ 82.9

5. 客単価

- 客単価DIは、前期からマイナス幅が5.9ポイント縮小し、▲34.9となった。

図表13 客単価DIの推移（全業種計）



図表14 業種別客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2019年 10～12月	2020年 1～3月	2020年 4～6月	2020年 7～9月	2020年 10～12月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 33.6	▲ 33.3	▲ 43.4	▲ 34.6	▲ 35.0
氷 雪	▲ 16.4	▲ 15.8	▲ 78.2	▲ 76.4	▲ 67.9
理 容	▲ 5.7	▲ 4.5	▲ 39.0	▲ 31.8	▲ 28.6
美 容	▲ 6.3	▲ 9.6	▲ 50.9	▲ 34.1	▲ 35.1
映 画 館	23.2	13.0	▲ 61.4	▲ 51.7	▲ 30.4
ホテル・旅館	▲ 10.6	▲ 12.9	▲ 63.8	▲ 47.5	▲ 15.6
公衆浴場	▲ 0.9	▲ 6.4	▲ 29.5	▲ 23.7	▲ 23.9
クリーニング	▲ 26.8	▲ 37.1	▲ 67.6	▲ 66.8	▲ 66.0

図表15 飲食業客単価DIの推移

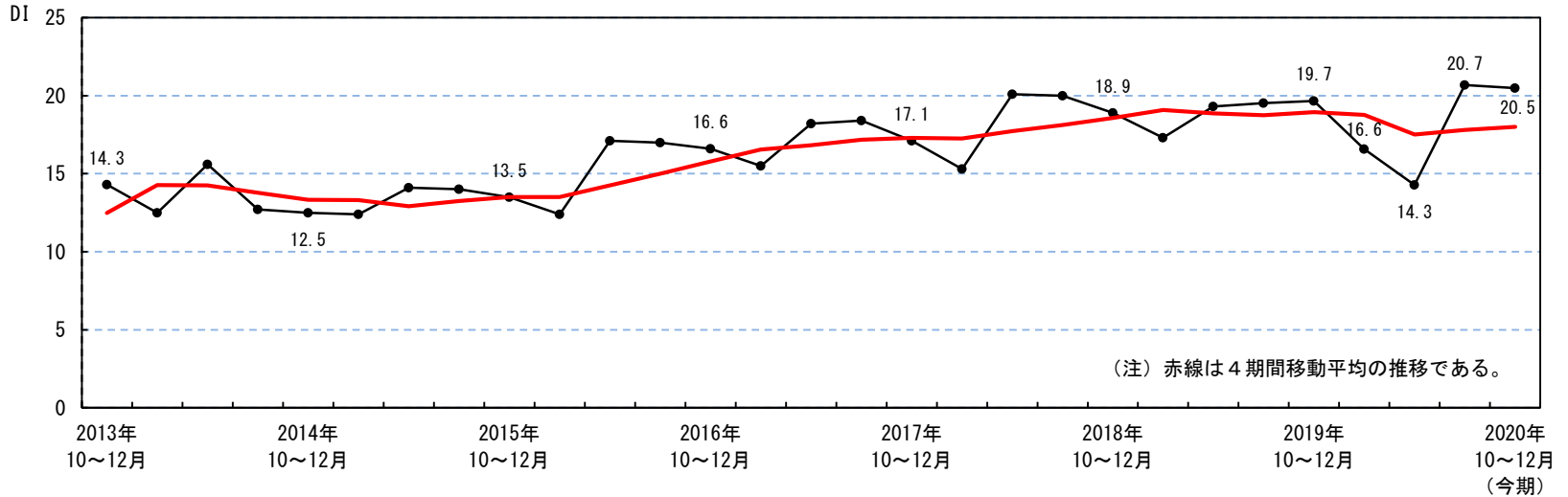
凡例	2019年 10～12月	2020年 1～3月	2020年 4～6月	2020年 7～9月	2020年 10～12月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 8.4	▲ 8.3	▲ 57.6	▲ 40.4	▲ 33.2
そば・うどん	0.6	▲ 0.6	▲ 46.5	▲ 28.3	▲ 18.0
中華料理	▲ 9.8	▲ 2.5	▲ 50.3	▲ 41.7	▲ 38.5
す し	▲ 20.0	▲ 18.1	▲ 69.1	▲ 40.3	▲ 38.7
料 理	▲ 13.3	▲ 7.7	▲ 71.1	▲ 48.0	▲ 41.4
喫 茶	2.5	0.0	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 21.7
社 交	▲ 13.9	▲ 14.7	▲ 62.8	▲ 50.3	▲ 39.5
その他飲食	▲ 6.8	▲ 9.9	▲ 58.1	▲ 43.5	▲ 34.6

II 設備投資の動向

1. 設備投資の実施状況

- 今期（2020年10～12月期）に設備投資を行った企業の割合は、20.5%となった。

図表 1 6 設備投資実施割合の推移（全業種計）



図表 1 7 業種別設備投資実施割合の推移（飲食業を除く） (%)

凡例	2019年 10～12月	2020年 1～3月	2020年 4～6月	2020年 7～9月	2020年 10～12月 (今期)
食肉・食鳥肉	36.2	28.1	21.3	24.4	27.4
氷 雪	20.0	15.8	7.3	5.5	12.5
理 容	11.2	10.0	6.2	13.5	15.8
美 容	13.9	11.5	10.2	12.6	16.1
映 画 館	37.5	33.3	19.3	26.2	22.8
ホテル・旅館	47.3	49.4	32.6	52.5	42.0
公衆浴場	34.5	25.5	34.8	37.7	36.3
クリーニング	18.4	15.9	13.5	18.3	16.4

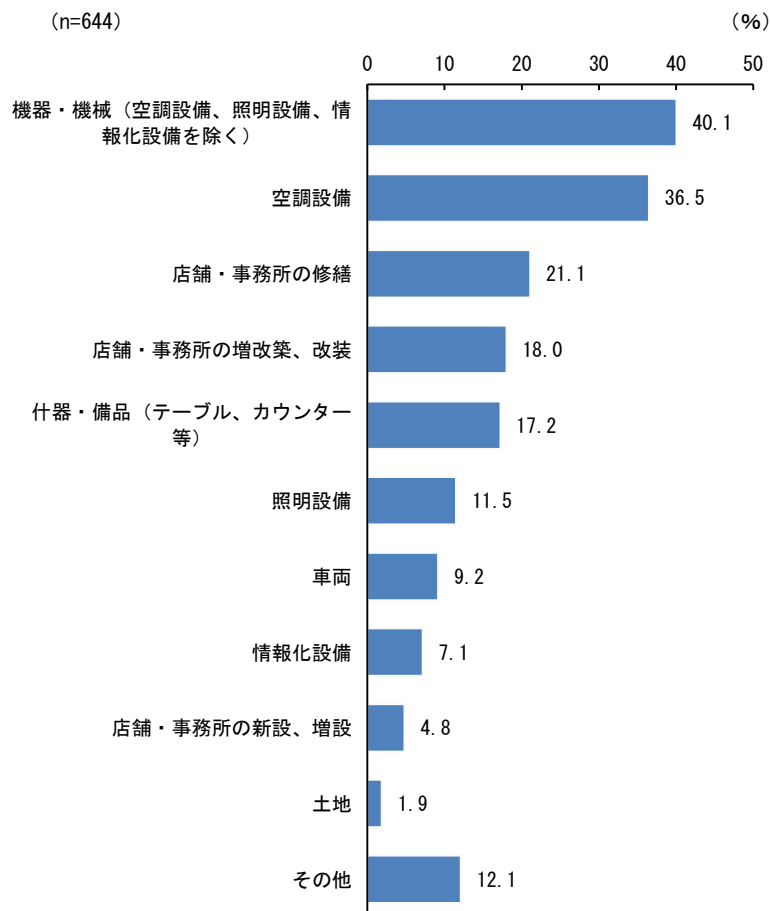
図表 1 8 飲食業設備投資実施割合の推移 (%)

凡例	2019年 10～12月	2020年 1～3月	2020年 4～6月	2020年 7～9月	2020年 10～12月 (今期)
飲食業(全体)	17.2	13.6	13.4	20.5	19.5
そば・うどん	16.3	11.1	18.5	18.2	17.3
中華料理	14.5	11.9	14.3	23.3	20.5
す し	19.4	15.4	12.7	24.2	18.7
料 理	33.1	19.5	19.3	19.5	21.9
喫 茶	15.8	15.4	13.4	19.2	19.2
社 交	8.8	9.3	9.0	15.5	15.2
その他飲食	17.4	14.3	11.4	21.9	21.9

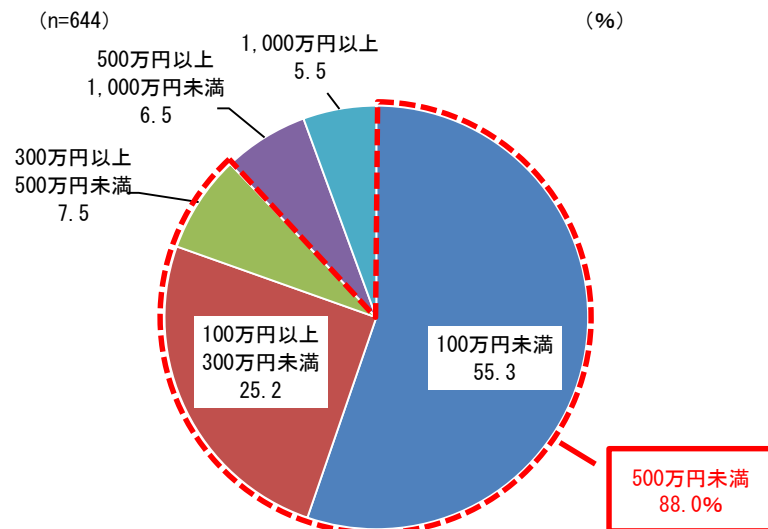
2. 設備投資の内容、設備投資金額、来期の設備投資計画

- 設備投資の内容は、「機器・機械（空調設備、照明設備、情報化設備を除く）」が40.1%と最も多く、次いで「空調設備」（36.5%）、「店舗・事務所の修繕」（21.1%）の順となっている。
- 設備投資金額は、500万円未満が全体の約9割を占めている。
- 来期（2021年1～3月期）の設備投資計画については、「実施予定あり」が11.5%となっている。

図表 1 9 設備投資の内容
(全業種計、複数回答(金額の大きい順に3つ以内))



図表 2 0 設備投資金額 (全業種計)



図表 2 1 業種別 来期の設備投資実施予定割合 (飲食業を除く)

(%)

凡例	2021年 1～3月期の予定
全業種計	11.5
食肉・食鳥肉	17.8
氷 雪	8.9
理 容	6.6
美 容	8.8
映 画 館	22.8
ホテル・旅館	28.2
公衆浴場	14.2
クリーニング	11.1

図表 2 2 飲食業 来期の設備投資実施予定割合

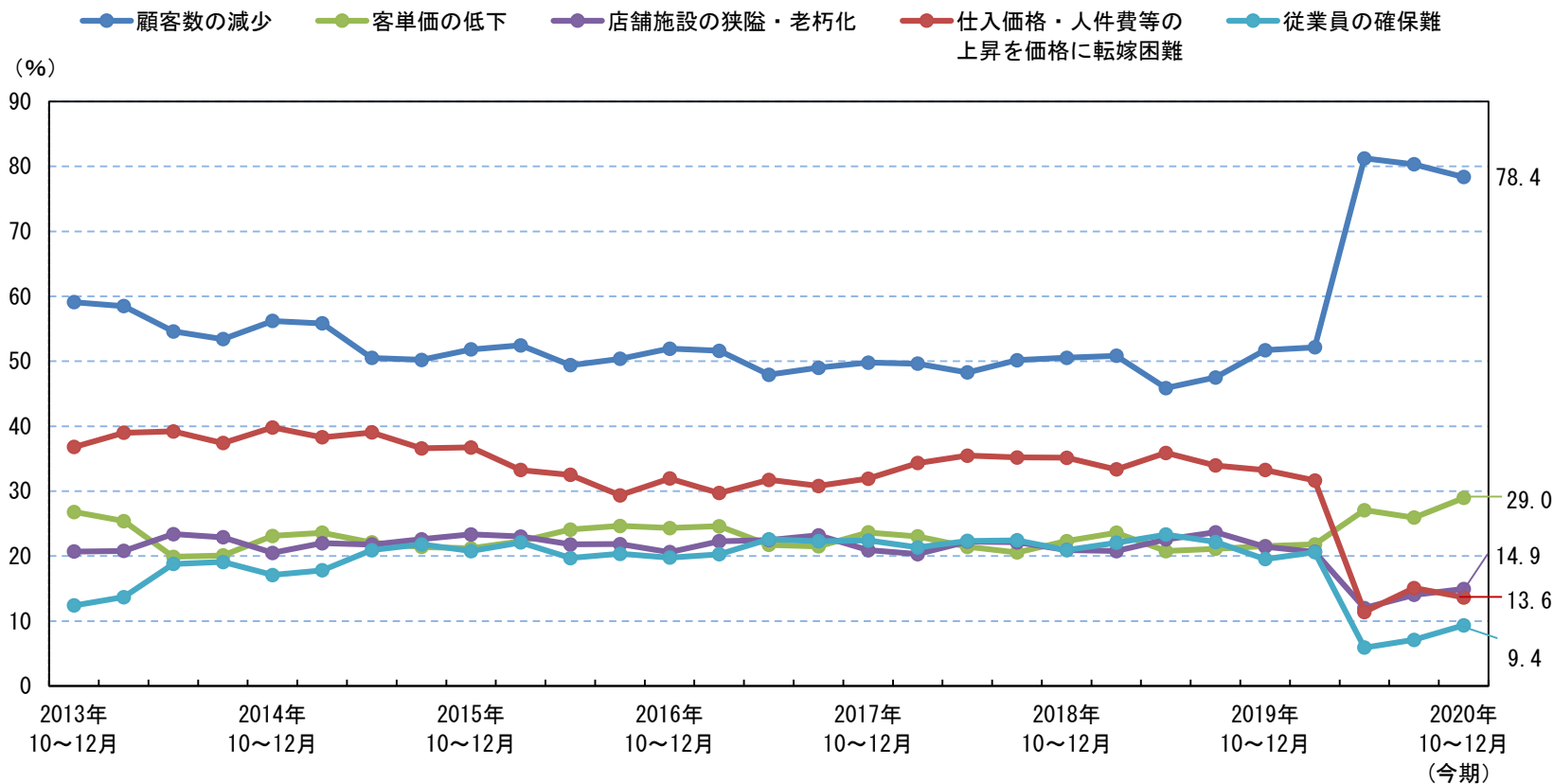
(%)

凡例	2021年 1～3月期の予定
飲食業(全体)	10.4
そば・うどん	10.6
中華料理	6.8
す し	8.2
料 理	12.5
喫 茶	13.2
社 交	5.8
その他飲食	13.1

Ⅲ 経営上の問題点

- 経営上の問題点をみると、「顧客数の減少」が78.4%と最も多く、次いで「客単価の低下」（29.0%）、「店舗施設の狭隘・老朽化」（14.9%）の順となっている。

図表 2 3 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答（2つ以内））



図表 2 4 経営上の問題点（業種別、2020年10～12月）

(%)

項 目	顧客数の減少	客単価の低下	店舗施設の狭隘・老朽化	仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難	従業員の確保難	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
業 種 合 計	78.4	29.0	14.9	13.6	9.4	5.0	3.5	12.2	4.4
飲食業合計	81.3	26.4	12.0	16.8	8.8	4.7	3.9	12.8	4.1
そば・うどん店	68.7	19.0	16.8	24.0	13.4	6.7	3.4	11.2	6.1
中華料理店	78.9	34.8	17.4	19.9	8.7	5.0	1.2	6.2	5.0
すし店	77.5	29.7	11.0	22.0	6.6	9.3	3.8	8.2	6.6
料理店	86.7	27.3	7.8	8.6	4.7	6.3	4.7	14.1	3.1
喫茶店	76.0	21.6	18.6	22.8	9.0	5.4	2.4	12.6	2.4
社交業	91.1	25.7	4.7	8.9	10.5	0.5	5.2	23.0	1.0
その他飲食店	85.2	26.9	10.5	14.0	8.1	2.9	4.8	13.1	4.0
食肉・食鳥肉販売業	43.9	26.8	19.7	35.7	18.5	5.7	1.3	8.9	5.1
氷雪販売業	82.1	37.5	7.1	10.7	3.6	8.9	8.9	12.5	1.8
理容業	74.5	30.0	11.3	9.2	7.1	6.6	1.7	14.2	8.3
美容業	82.4	32.1	9.6	7.1	12.2	4.5	2.6	12.6	4.5
映画館	77.2	10.5	28.1	8.8	12.3	1.8	3.5	24.6	3.5
ホテル・旅館業	75.7	21.5	32.0	9.4	18.2	3.3	7.2	8.8	1.1
公衆浴場業	77.9	8.8	49.6	7.1	6.2	6.2	5.3	5.3	3.5
クリーニング業	83.6	53.1	15.3	9.5	1.5	4.6	2.7	9.5	2.3

(注) ・複数回答(2つ以内)のため合計は100を超える。

・表中、全業種計の割合を上回るものを網掛けしている。

IV 業況判断理由

(1) そば・うどん店

都道府県	業況	判断理由
茨城県	好転 (今期)	水戸市主催の「水戸美味（うま）スタンプラリー」やGoToイートの効果で、客足が増加した。
愛知県	好転 (今期)	コロナ禍で近隣の飲食店の閉鎖、休業が続くなか、地域共通クーポンを利用する観光客やGoToイート食事券を利用する地元客が増加している。
高知県	好転 (今期)	10月～11月中旬までは県内の感染状況が落ち着いていたこともあり、行楽・観光で外出機会が増え、ランチ客も増えた。12月に入り感染拡大が続いているものの、GoToイート食事券の効果が続いている。
千葉県	不変 (今期)	市のプレミアム付き商品券を利用したお客様は増えてきているが、昼食利用に限られ、客単価が上がる夜の需要は冷え込んでおり、現状維持が精一杯である。
埼玉県	悪化 (今期)	ランチ需要は回復基調にあるが、酒類を伴う夜の飲食需要は冷え込んだまま。12月の全国的な感染再拡大の影響で、昼の来店客への影響が懸念される。
神奈川県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの感染拡大防止で、昨年まで参加していたイベントや町内の祭りが中止となった影響が大きく、感染拡大が続く状況で来店客と出前注文も減少したままである。
長野県	悪化 (今期)	気温や湿度の低下とともに新規感染者数が全国的に増加するなか、県内の飲食店でも複数人の会食に伴うクラスター発生が多く見られるようになり、急激に客足が遠のきだした。
広島県	悪化 (今期)	11月中旬以降、感染拡大するなかで、近隣の飲食店でクラスターが発生した影響から、戻りかけたお客様が再び減ってきている。
茨城県	悪化 (来期)	全国的な感染拡大が続くなか、忘年会や新年会の予約が全てキャンセルとなった。テイクアウトも供給過剰状態で益々厳しくなる見通しである。
静岡県	悪化 (来期)	GoToキャンペーンで観光客を含め人の移動が増え、客入りも上向きになってきたところであるが、全国的に感染拡大が続いており、再び客足は遠のくのではないかと心配している。

(2) 中華料理店

	業況	判断理由
長崎県	好転 (今期)	近隣の工事関係者のほか、GoToキャンペーンを利用した観光客が店内で飲食する機会が増えてきており、コース料理の注文が増え客単価も上がっている。
北海道	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響で、夜の来客の減少が響いている。廃業した店舗に同業の新店舗が出店することもあり、さらに厳しくなった。
埼玉県	悪化 (今期)	コロナ禍で人件費の削減や営業時間の短縮でコスト削減に取り組んでいるが、客足は戻らず、厳しさが増している。
神奈川県	悪化 (今期)	GoTo効果で10月は客足が回復しつつあったが、11月に入り感染再拡大が報じられるようになり、客足が減少してきている。
兵庫県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響によりランチ、ディナーの客数が減少。特にディナータイムは、企業の宴会が中止となり厳しい状況が続いている。
富山県	悪化 (来期)	県内の感染者数の増加が連日報道されるなか、ランチの常連客でさえ来店機会が減っている。
広島県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの影響が長引き、夜の会食客は戻っておらず、感染拡大が収束しない限り回復する見通しはない。
徳島県	悪化 (来期)	全国的に感染者が増加しており、外食を控える動きが目立ってきている。夜の会席はほとんどなく、テイクアウトは異業種からの参入もあり、供給過剰気味である。

(3) すし店

都道府県	業況	判断理由
北海道	好転 (今期)	GoToトラベルやGoToイートの効果で、道内への観光客が増加するなかで、地域共通クーポンを使った予約客が増えた。
石川県	好転 (今期)	GoToトラベルの地域共通クーポンやGoToイートの食事券等の効果が絶大で、客単価アップに繋がっている。
静岡県	好転 (今期)	地域共通クーポンを含むGoToトラベルやGoToイートなどの経済活性化対策の効果が浸透しており、常連客以外に観光客のランチ需要が増えている。
千葉県	悪化 (今期)	感染拡大で新規感染者数が報道されるなかで、感染への不安が広がってきている。高齢者の固定客が多いだけに、客足への影響が大きい。
兵庫県	悪化 (今期)	コロナ禍で各種イベントの中止や大人数での会食禁止など、常連客の市職員、教員、病院、幼稚園、高砂市内の大手企業の間で行動自粛が続いている。
鹿児島県	悪化 (今期)	コロナ禍でも、11月中旬ごろまでは回復の兆しが見られたが、それ以降、テレビ等で感染拡大が連日報道されるようになり、急激に悪化した。忘年会の予約も低調。常連客に年配者が多いことも大きく影響している。
愛媛県	好転 (来期)	全国的に感染拡大が収まらない状況ではあるが、感染防止への取組みが定着し安心感が広がっている。SNS等を通じて当店の営業スタイルをアピールできるチャンスだと思っている。
沖縄県	不変 (来期)	GoToトラベルの地域共通クーポンの利用で多少増えてきたが、全国的な感染拡大により外出自粛の報道も出ているので期待できない。
埼玉県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスのワクチン接種が具体化しないと感染への不安が続き、飲食店に客足が戻るのは厳しい。忘年会の中止に加え、新年会等の会食予約も大幅に減っており、感染拡大が収束しない限り見通しが立たない。
広島県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの感染拡大で見通しが立たない。GoToキャンペーンが年末年始に全国一斉に利用中止となり、新年会等の予約もキャンセルが続いている。

(4) 料理店

都道府県	業況	判断理由
岡山県	好転 (今期)	GoToイートを利用した予約が増え始め、客単価も上昇している。テイクアウトの弁当類やオードブルの注文予約が増えている。
大阪府	不変 (今期)	GoToイート効果やランチ営業の開始などで昼食時間帯のお客様は増えてきたが、酒類等の注文が減り客単価が低下傾向にある。
青森県	悪化 (今期)	県内の感染状況や飲食を通じた感染拡大など、連日の報道に振り回されている。GoToキャンペーン効果で回復傾向にあったが、11月後半からの感染再拡大や年末年始のキャンペーン一時中止による影響が計り知れない。
富山県	悪化 (今期)	12月は忘年会シーズンで最も稼ぎ時になるが、全国的な感染拡大で予約のキャンセルが増えてきている。おせち料理やオードブル等のテイクアウトで何とか繋いでいる。
兵庫県	悪化 (今期)	宴会や食事会等の多人数での会食自粛が続くなか、11月下旬からの感染拡大の影響で、忘年会の予約はほぼ全てがキャンセルとなった。
岐阜県	好転 (来期)	GoToイートに参加登録した効果が大きく、期間中は常連客だけでなく予約サイトを通して新規客の利用が増えてきている。
静岡県	好転 (来期)	今期は感染拡大への警戒から相当厳しかったが、GoToイートに参加登録した効果が大きく、予約サイトを通して新規客の利用が増えてきている。
栃木県	悪化 (来期)	例年この時期はあまり良くないが、今年はさらに年末年始の忘年会や新年会等が中止された影響が大きく、このまま感染拡大が収まらなければ、年度末の歓送迎会等も期待できない。
徳島県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、忘年会等の予約キャンセルが相次ぎ、今後も新年会等の会食開催が中止・縮小される可能性が高い。
佐賀県	悪化 (来期)	感染への不安が無くならない限り、すぐには客足は戻らない。企業が接待だけでなく、社員に対し会食自粛を呼び掛けているようで、年末年始や年度末の各種イベントも中止・延期される可能性が高い。

(5) 喫茶店

都道府県	業況	判断理由
神奈川県	好転 (今期)	テレワークの利用者が増え、ランチ+ドリンクのセットメニューが人気。また、GoToイートの食事券を使ったお客様も増えている。
愛知県	好転 (今期)	GoToイート食事券や自治体のプレミアム付き地域食事券の利用客が多く、ランチ+ドリンク、ケーキセットなどが人気で客単価アップにも結び付いている。
群馬県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、来店客が少なくなっている。GoToキャンペーンに参加しておらず、集客の方策が見出せない。
高知県	悪化 (今期)	リモートワークの普及でランチ需要が減った。また、近くの病院へのお見舞いができないようで、いつもはお見舞いの帰りに立ち寄るお客様の顔も見なくなっている。GoToイートに参加しなかった影響も出ている。
佐賀県	悪化 (今期)	厨房スタッフの不足でテイクアウトに対応できず、また、ランチ客も11月後半からの感染拡大で再び減少している。
山口県	好転 (来期)	感染状況が落ち着いてくれば、GoToキャンペーン等の支援効果が期待できる。テイクアウトではワンランク上の珈琲豆の挽き売りの人気が続いている。
富山県	悪化 (来期)	GoToキャンペーンや自治体の支援事業に参加しておらず、客足は遠のいたまま。長引くコロナ禍で見通しが立たない。
長崎県	悪化 (来期)	県内の新規感染者が増えてきており、女性客やお年寄りのグループによるランチ客が減少している。

(6) 社交業

都道府県	業況	判断理由
岩手県	好転 (今期)	GoToイートの食事券を使い居酒屋等を利用する地元客が増えているようで、その流れで若者客の二次会予約が入るようになった。
群馬県	悪化 (今期)	紅葉シーズンの行楽客や忘年会シーズンの宴会客の予約は前年比3%程度にとどまり、赤字覚悟の営業を続けている。
富山県	悪化 (今期)	夜の接客業への風評等の影響から、消費者が夜の外食や飲酒の場でのクラスター発生を心配しており、客足は落ち込んだままである。
大分県	悪化 (今期)	感染拡大が続くなか、夜の接客業の需要は減ったままで、忘年会等の宴会が自粛されており、予約もほとんど入らない状況。
鳥取県	不変 (来期)	夜の接客業への風当たりは厳しさを増しており、忘年会や新年会等の中止の影響が大きい。新型コロナウイルスの感染拡大が終息しない限り、来期も回復する見込みはない。
神奈川県	悪化 (来期)	通常であればクリスマスや忘年会、新年会の二次会予約が入って当たり前だが、予約が全く無い。全国的な感染拡大が収まらない限り、法人需要は期待できず、個人の利用についても夜の外食機会を控える傾向が続く見通し。
岐阜県	悪化 (来期)	クリスマス会や忘年会、新年会等のイベントの中止で二次会予約が大幅に減り続けている。新年は今以上に新型コロナウイルスの新規感染者が増えていそうで、営業できるかどうか不安である。
静岡県	悪化 (来期)	感染拡大防止への対応で、地域の各種イベント等がほとんど中止となり、夜の飲食需要はほぼ見込めない。

(7) その他飲食店

都道府県	業況	判断理由
広島県	好転 (今期)	GoToトラベルの地域共通クーポンやGoToイート食事券の恩恵で、食事メニューだけでなく酒類飲料メニューの注文が増え、客単価アップに繋がった。
鹿児島県	好転 (今期)	プレミアム付き商品券やGoToイート食事券を利用したお客様が大幅に増えたのに加え、GoToトラベルで旅行客が戻ってきたことも大きく寄与している。
栃木県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響で夜の営業は休止している。昼食とテイクアウトだけでは厳しい。
静岡県	悪化 (今期)	全国的に感染拡大が続くなか、予約のキャンセルが出始めて来た。カラオケを伴う飲食店でのクラスターの発生でさらに予約のキャンセルが出てくる。
兵庫県	悪化 (今期)	大学生やサラリーマン・OLが主なお客様であるが、テレワークやリモート授業が増えたことで、来客が減少したままである。
熊本県	好転 (来期)	熊本地震災害で不通になっていた国道57号線の開通効果が大きく、流通業者や工事関係者、行楽客など多様なお客様のランチ需要が見込める。
岩手県	悪化 (来期)	県内での感染増加に伴い、会社の飲み会を自粛する動きがあり、予約のキャンセルが増えている。忘年会だけでなく新年会や賀詞交歓会も中止されており、感染拡大が落ち着いた限り悪化は避けられない。
千葉県	悪化 (来期)	長期化するコロナ禍で外食を自粛する傾向が強まっており、来客数は激減したままで回復は見込めない。
岡山県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの終息は見えず、感染拡大により地域の新規感染者も急増しており、先行きが不安である。
大分県	悪化 (来期)	感染拡大の影響で今後の見通しは厳しい。年末年始の予約もほとんどキャンセルになり、年度末の歓送迎会の予約も期待できない。

(8) 食肉販売業

都道府県	業況	判断理由
和歌山県	好転 (今期)	精肉だけでなく、自家製のコロケやとんかつなど加工品の店頭販売の需要が旺盛。卸も学校給食が回復したほか、焼肉店等向けも昨年以上の注文がある。
徳島県	好転 (今期)	GoToキャンペーン効果で飲食業や宿泊業からの需要が回復傾向にあり、巣ごもり需要からテイクアウト中心に小売の好調も続いている。
神奈川県	悪化 (今期)	高齢者の常連客が多いことから、感染拡大で外出機会が減り、店売りは減少傾向。手作り加工品や総菜類も販売しているが、効果は小さい。
滋賀県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響で飲食店への客足が途絶えており、業務用の注文が伸びない。小売もテイクアウトに力を入れ客数は増えたが、他店との競合激化もあり、薄利多売の状態。
群馬県	好転 (来期)	巣ごもり需要もあり、お正月用を含めオードブルや自家製加工品など予約が増えた。感染拡大が続くなか、テイクアウト需要の増加を見込んでいる。
岐阜県	悪化 (来期)	飲食店向けの業務用の卸売が中心。感染拡大が続くなか、年末年始のGoToキャンペーンが中止されたことで、忘年会や新年会等のイベント関連のキャンセルが増え、再び厳しくなる見通しである。

(9) 食鳥肉販売業

都道府県	業況	判断理由
埼玉県	好転 (今期)	巣ごもり需要の拡大やテレワークの普及により、テイクアウトの弁当類や唐揚げ・焼鳥など加工食品の需要が大幅に伸び、自社工場での鶏肉処理羽数の増加で卸部門も回復している。
山梨県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響が根深く、飲食店や学校給食向けの業務用需要が減少したままである。
香川県	悪化 (今期)	11月～12月にかけて鳥インフルエンザが発生したことによる風評被害による影響が大きい。

(10) 氷雪販売業

都道府県	業況	判断理由
栃木県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響で10月に予定されていた体育祭や文化祭などのイベントが全て中止となり、製氷保管のための電気代が負担になっている。
神奈川県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの感染拡大により、各種イベントが中止、または入場者数が制限された影響で、売上が減少した。
新潟県	悪化 (今期)	スナックなどの社交飲食店向けがほとんどで、客足の落込みにより休業や廃業が増え、悪化が続いている。
広島県	悪化 (今期)	感染拡大が続くなか、町内会等の各種イベントが中止になり、予約も全てキャンセルとなった。飲食店などの休業や廃業が相次ぎ、取引先の減少が続いている。
鹿児島県	悪化 (今期)	秋祭り等のイベント中止に伴い、注文がキャンセルになったほか、スナックやバー等の飲食店向けも廃業や営業自粛により苦戦が続いている。
富山県	悪化 (来期)	コロナ禍で夜の飲食への風当たりが厳しさを増している。取引先のスナックやバー、居酒屋などの休廃業が増えており、今後の見通しが立たない。
大阪府	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、社交業を含む飲食店の休廃業が増えている。年度末の各種イベントが中止されれば、益々厳しくなる。

(11) 理容業

都道府県	業況	判断理由
鳥取県	不変 (今期)	行楽や観光を機にサロンを利用するお客様が増えているが、感染対策で予約を制限し理容椅子の稼働も減らしているため、受入れ自体を増やせない状況。
青森県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの感染拡大の影響で高齢者の外出機会が減り、施設や病院への訪問理容サービスの出入りも制限されている。
神奈川県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響により、固定客の来店間隔が長くなっており、密を避ける理由から顔そりを行わない顧客が目立つようになった。
愛知県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響で、お客様の来店頻度が毎月ではなく3～4ヶ月サイクルに長期化したままである。
愛媛県	悪化 (今期)	イベントの中止や外出機会も減るなかで、調髪への関心も薄れているようで、利用頻度が長期化したり、カットのみの希望が増える傾向にある。
福岡県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響で年配客の来店がなくなった。また、春の転勤がずれ込んだ影響で、常連客の転出がまとめてあった影響も大きい。
熊本県	好転 (今期)	予約制を始めて効果が上がっている。感染防止の取組みが定着し安心感が広がっているおかげと感じている。
福井県	悪化 (来期)	コロナ禍による営業不振で西武福井店新館が令和3年2月に閉店されることになり、中心市街地は一層寂れ、買い物の人出が減れば、当店の客足にも影響が出てくる。
岐阜県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、入店客数を制限している。寒くなる季節でもあり、さらに客足が減るのではないかと思う。

(12) 美容業

都道府県	業況	判断理由
宮城県	好転 (今期)	新型コロナウイルスの影響で客数が減少していたが、GoToキャンペーンやプレミアム付き生活応援商品券を使った予約客で持ち直している。
島根県	悪化 (今期)	訪問理容サービスを展開しているが、感染防止対策のため高齢者施設への立入が禁止されている影響が大きい。店舗も客足が減り、カットのみの希望が増え客単価も低下している。
広島県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスの影響で来店周期が長くなるお客様や、自宅でセルフカット・セルフカラーされる方も増えている。また、結婚式・葬儀等の規模縮小に伴い、着付けやヘアメイクの需要も減っている。
宮崎県	悪化 (今期)	GoToキャンペーン効果を期待していたが、感染拡大の影響で、お客様が観光や行楽に出かける機会が減り、ヘアメイクの需要も鈍くなっている。
新潟県	不変 (来期)	新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、積雪が増え外出機会も減ってくることから、卒業式や謝恩会、歓送迎会等での着付けやヘアメイク需要もあまり期待できない。
山形県	悪化 (来期)	コロナ禍で客足が落ちるなか、最近の感染拡大で平日の予約客が減った。また、カットのみを希望するケースが増え客単価も落ちてきている。
京都府	悪化 (来期)	全国的に感染拡大が続いており、戻り始めた客足が再び減速する可能性が高い。3月の卒業式や謝恩会、送別会等のイベントが中止になり、着付けやヘアメイクの予約が入らなければ、先行きは相当厳しくなる。
山口県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの収束が不透明ななか、成人式を中止する自治体が増え、年度末の卒業式や旅行等も中止の可能性が高いことから、着付けやヘアメイクの需要は落ち込んでしまう。
高知県	悪化 (来期)	ブライダル業界が良くなると、着付けやヘアメイクの需要が見込めないのと同時に、コロナ禍が長期化すると事業継続すら厳しくなる。

(13) 映画館

都道府県	業況	判断理由
福島県	好転 (今期)	「鬼滅の刃」が空前のヒット作品として各種メディアで報道された効果もあり、土日祭日だけでなく、平日も夕方からの来場客が増えている。
東京都	好転 (今期)	「鬼滅の刃」という記録的な大ヒット作品に恵まれ、新型コロナウイルスの影響があるなかでも、来場客数は前年同期を大幅に上回る見込み。
静岡県	好転 (今期)	「鬼滅の刃」の大ヒットで、昨年を越える観客動員数を毎月更新している。
岡山県	好転 (今期)	「鬼滅の刃」が全国的に大ヒットするなか、来場客は平日も安定して確保できており、関連グッズ商品や飲食関連含め客単価アップにも結び付いている。
大阪府	悪化 (今期)	感染防止対策で席数制限（75%）を自主的に行っており、当分は厳しい状況に変わりはない。
岩手県	不変 (来期)	「鬼滅の刃」以外の作品が弱いのが、感染防止のガイドラインが見直され、飲食付きで満席の観客動員ができるようになったことから、引き続き現状維持は期待できる。
千葉県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの影響が長引き、厳しさが増している。特に「鬼滅の刃」が大ヒットとなった反動から、今後は観客動員は減る見込み。
富山県	悪化 (来期)	「鬼滅の刃」に代わるヒット作品の配給がなく、感染拡大も続いていることから、観客動員は厳しくなると思う。

(14) ホテル・旅館業

都道府県	業況	判断理由
鳥取県	好転 (今期)	GoToトラベルと鳥取宿泊キャンペーンの効果で、県外観光客だけでなく、県内のファミリー層の宿泊が増え、客単価も昨年を上回っている。
山口県	好転 (今期)	GoToトラベルの効果で、宿泊客数・金額ともにアップしている。休日前後は満室日が多く、平日も昨年以上の予約の確保ができています。
佐賀県	好転 (今期)	GoToトラベルなどの観光支援事業の効果で満室状態が続いている。県外の小グループの宿泊が中心で、地域共通クーポンの利用も多く、客単価が高くなっている。
岩手県	悪化 (今期)	GoToトラベル効果で観光地や温泉地の宿泊施設は賑わっているが、ビジネス客や工事関係客を相手にする施設には恩恵が少ない。感染者数が増え始めた11月中旬からは、キャンセルが目立つようになった。
滋賀県	悪化 (今期)	GoToトラベル効果で客室の稼働は少しずつではあるがよくなっているが、忘年会等の宴会は自粛傾向が強くなり、感染再拡大でキャンセルが増えている。
徳島県	悪化 (今期)	コロナ禍の長期化によりイベント、スポーツ関連の団体客が減っている。個人旅行などGoToトラベルの効果は出ているが、ビジネス目的の適用が制限されていることもあり、回復には至っていない。
北海道	悪化 (来期)	11月から感染拡大が続き、GoToトラベル経由の予約キャンセルが止まらない。年末年始の全国一斉停止措置により、さらに厳しくなる見通し。
宮城県	悪化 (来期)	11月まではGoToトラベルを利用した宿泊客で賑わったが、12月に入り感染拡大が続く中、年末年始の一時中断措置が発表されたことで、予約キャンセルが相次いでいる。
埼玉県	悪化 (来期)	全国的な感染拡大が収まらない状況であり、年末年始に中断したGoToトラベル事業が再開されるか不安。観光客やビジネス客の宿泊需要、イベント等の宴会需要が全く読めず先が読めない。
長野県	悪化 (来期)	ここ数年、スキー宿泊客の減少は著しく、新型コロナウイルスの感染拡大が続く限り、スキー客は一層の冷え込みが懸念される。

(15) 公衆浴場業

都道府県	業況	判断理由
北海道	好転 (今期)	本格的な冬の到来で組合発行の共通入浴回数券を使った地元客が増え始めたほか、温泉設備のない近隣ホテルの宿泊客の入浴もみられる。
東京都	好転 (今期)	9月以降、感染状況が落ち着くなかで、固定客の入浴客は回復。11月中旬以降、感染拡大がみられるものの、これまで銭湯での感染が確認されていないこともあり、客足の落込みはみられない。
秋田県	悪化 (今期)	新型コロナウイルスが未だ収まらず、狭い浴場・脱衣場での3密を避けるため、入浴客が減り、客数がゼロという日も増えている。
青森県	好転 (来期)	寒くなる冬季は朝風呂で銭湯を利用する方が増える傾向がある。また、巣ごもりのストレス解消のためか、夕方からの来客も増えている。
和歌山県	好転 (来期)	今後、感染拡大が落ち着いてくれば、常連客が戻って来ると期待している。銭湯でのクラスターは発生しておらず、広い浴槽とサウナの需要は根強い。
大阪府	不変 (来期)	感染拡大が続いているが、感染対策の取り組みが定着するなかで安心感が広がったためか、入浴客の落込みはなく、先行きもそれほど変化がないと思う。
愛知県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの影響が予想以上に大きく、特に高齢客の減少が顕著でこの先が心配である。

(16) クリーニング業

都道府県	業況	判断理由
栃木県	好転 (今期)	GoToキャンペーンの効果で旅行等へ外出する機会が増え、オシャレ着の需要が増えている。また、本格的な冬の到来もあり、礼服・やダウンなど厚物衣料の持込みが増えている。
宮城県	悪化 (今期)	コロナ禍で外出機会が減ったことに加え、テレワークの普及やイベント中止等の影響でスーツやワイシャツの定番品をはじめ秋冬物衣料の需要が減ったままである。
山梨県	悪化 (今期)	コロナ禍でインバウンドや国内旅行に関連した需要が大幅に減少した影響で、周辺宿泊施設からのリネン関係の受注が回復しない。
静岡県	悪化 (今期)	祭り等の各種イベントが中止になり、浴衣や法被等の洗濯需要がなくなり、厳しさを増している。
香川県	悪化 (今期)	秋祭りなどのイベント等が全部中止になり、浴衣や法被等の季節需要がなくなった。感染防止策は講じているが、お客様の感染への不安は根強く、来店客数は減少したままである。
佐賀県	悪化 (今期)	地域のイベント等の中止で季節需要がなくなり、テレワークの普及や旅行等の外出機会の減少で、ワイシャツやスーツなどの定番の洗濯需要も落ち込んだままである。
京都府	悪化 (来期)	例年1～3月は閑散期になる。新型コロナウイルスの感染拡大が収束しない限り、年度末の各種イベントの洗濯需要が期待できなくなる。
岡山県	悪化 (来期)	新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、外出自粛が長期化するようであれば、コートやダウン等の冬物の衣替え需要が冷え込むことから、さらに厳しさは増す見込み。
沖縄県	悪化 (来期)	年末年始の自粛と新型コロナウイルスの拡大で当期の後半から来期にかけては苦戦を強いられそう。ホテルのリネンも厳しそうである。